



炬火を掲げていざ謳う

No.13



我らの泉鳥取

2022年8月29日（月）

編集・発行 泉鳥取高校 教頭（妻木）

大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10

<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html>

ふりむけば 泉鳥取 ハナミズキ

本校は、「ハナミズキ」を学校の花「校花」としています。当初は成長が早く、美しいことから校内を彩る花として昭和54年に採り入れられました。毎年4月の中旬から咲き始め、中庭一面の花々は、教職員や入学直後の1年生の心を癒します。ハナミズキについて、第6代校長 故森本敏史先生が、創立20周年記念誌に思いを書いておられるので。引用します。



平成3年の4月、本校に赴任してまだ日も浅い下旬のある日（中略）最後まで理科でどうしても（講師の穴を）埋められないまま、ついに見切り発車になってしまっていたのです。無理を承知で、ともかく当座は教科で分担をお願いして、できうる手立てはすべて尽くしたのですが、ことごとく駄目でした。（中略）連絡会（職員朝礼）の終わるころ、天気が急変して、はたと雨が止み雲が慌ただしく逃げ去って、（中略）突然、その場に立ちすくんでしまったのです。何と校庭のハナミズキが見事一斉に開花しているではありませんか。雨に濡れた花片は息をのむほど鮮やかで、雫が宝石のようにキラキラ輝いて、しばらくはただ啞然と見つめるばかりでした。あの重くのしかかっていた鬱積がいつしか幻のように蒸発してしまっているのです。きっと講師は見つかる、変わって確信のような活力がもくもく湧いてきて、一気に眺望が開けたような、爽やかな気持ちになりました。（中略）以来とりわけハナミズキにこだわるようになったのです。

森本先生は、写真撮影が趣味で、平成3年から5年の卒業アルバムに相当数の写真を撮影されています。ハナミズキにもこだわり、多くの作品を残しておられます。平成5年度、中庭のハナミズキの幹が太くなるように、鉢を大きくする改良工事を行い、最後までハナミズキを大切にされました。

歴代の校長、教職員、そして生徒たちに愛された花です。



20周年記念誌の表紙（題字 毛藤 佳宏）

（校舎 小谷 智彦、ハナミズキ 妻木 靖朗）



10周年記念誌表紙のハナミズキ（赤木 龍吉）